

論文審査の要旨

報告番号	甲・ <input type="checkbox"/> 第 2976 号	氏 名	土屋 裕
論文審査担当者	主査	相良 博典 教授	
	副査	平野 勉 教授	
	副査	小風 暁 教授	
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>これまでに多彩なリウマチ関連肺疾患 (RA-LD) をまとめ死因や予後まで比較検討した大規模な報告はない。本研究では 144 例の RA-LD の臨床像を後ろ向きにまとめ検討した。</p> <p>5 年生存率は usual interstitial pneumonia (UIP) 36.6%、気管支拡張症 87.1%、nonspecific interstitial pneumonia (NSIP) 93.8%、細気管支炎 88.9%、器質化肺炎 60.0%、diffuse alveolar damage (DAD) 20.0%だった。DAD の予後は UIP よりも悪かった ($p=0.026$)。UIP の予後は気管支拡張症、NSIP、細気管支炎よりも悪かった ($p<0.001$; 0.003; 0.02)。対象患者の約半数が経過中に死亡し、その死因の 8 割が呼吸器疾患、特に肺感染症が多かった。</p> <p>以上の結果より RA-LD の中で DAD の予後が最も悪いということが初めて示された。また、臨床医は RA-LD をきちんと鑑別すること、感染症の早期発見、適切な治療が必要だということが示唆された。本論文が新しい知見を得ており、学術上価値のあるものと考えられる。</p> <p>論文題名 : Lung diseases directly associated with rheumatoid arthritis and their relationship to outcome (リウマチ関連肺疾患とその予後との関係について)</p> <p>掲載雑誌名 : European Respiratory Journal vol. 37; No.6 1411–1417: 2011 年掲載</p>			

(主査が記載、500 字以内)